

平成22年度版 飛騨・美濃じまん白書

平成21年度 飛騨・美濃じまん運動の進捗について

岐阜県観光交流推進局

# 目次

P

## 第1章 岐阜県の観光の現状と課題

- |   |  |   |
|---|--|---|
| 1 | 本県の観光の現状<br>～平成21年岐阜県観光レクリエーション動態調査結果～ | 1 |
| 2 | 飛騨・美濃じまん運動実施計画に掲げる目標の進捗状況と今後の課題        | 6 |

## 第2章 「観光王国飛騨・美濃」に向けて実施した主な取組（6つのプロジェクト別）

- |   |                      |    |
|---|----------------------|----|
| 1 | 岐阜の宝もの認定プロジェクト       | 11 |
| 2 | 飛騨・美濃じまん観光誘客プロジェクト   | 14 |
| 3 | 飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト   | 19 |
| 4 | 県産品ブランド力向上プロジェクト     | 23 |
| 5 | まちづくり支援・移住定住推進プロジェクト | 33 |
| 6 | 「ふるさとの誇り」づくりプロジェクト   | 39 |

## 参考資料

- |   |                              |    |
|---|------------------------------|----|
| ・ | 平成21年度の飛騨・美濃じまん運動の推進に向けた検討状況 | 42 |
| ・ | みんなでつくろう観光王国飛騨・美濃条例          | 44 |

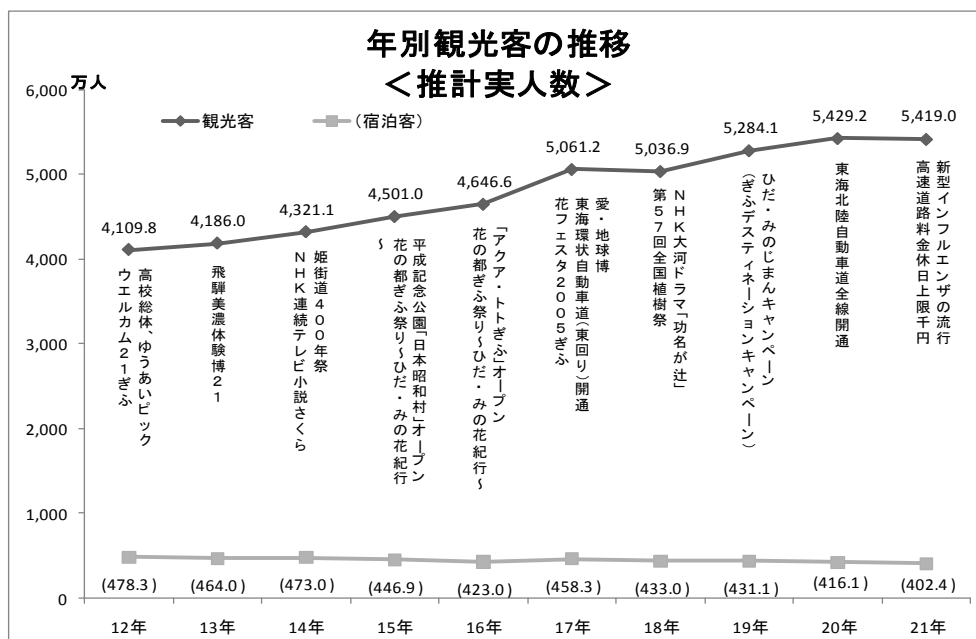
# 1

## 岐阜県の観光の現状と課題

### 1 本県の観光の現状 ～平成21年岐阜県観光レクリエーション動態調査結果～

#### (1) 観光入り込み客数

平成21年の観光入り込み客数は、前年と比較して、宿泊客数が減少（前年比▲3.3%）、日帰り客数は増加（前年比+0.1%）となり、全体では前年比▲0.2%の5,419万人と、ほぼ横ばいとなった。〔図1〕



〔出展〕「平成21年岐阜県観光レクリエーション動態調査」

※) 推計実人数：同じ観光客が県内の複数の観光地点を訪れたり、2泊以上宿泊したとしても、実際の観光客数は一人であることから、延べ観光客数からパラメータを用いて実人数を推計する。

折からの世界的金融危機に端を発した景気の低迷に加え、平成21年4月24日にメキシコで発生し世界中に感染拡大した「新型インフルエンザの流行」により宿泊客が減少した一方で、こうした影響がある中、飛騨・美濃じまん観光キャンペーンなど各種誘客事業の実施や、東海北陸自動車道の全通、高速道路料金の休日上限千円などにより日帰り客が増加したが、宿泊客の減少をカバーすることはできず、全体として前年からほぼ横ばいとなった。

〔表1〕観光地点別入り込み客数順位(ベスト10)

順位	観光地点名	観光客数 (万人)	前年順位
1	土岐プレミアム・アウトレット	4,390.0	(1)-
2	河川環境楽園(アクアト含む)	414.2	(2)-
3	高山地域	263.3	(3)-
4	千代保稲荷神社	208.6	(4)-
5	千本松原・国営木曾三川公園	194.1	(6)↑
6	世界イベント村ぎふ	167.4	(5)↓
7	白川郷合掌造り集落	158.6	(7)-
8	伊奈波神社	131.3	(8)-
9	下呂温泉	124.4	(9)-
10	谷汲山華厳寺	103.7	(10)-

〔出展〕「平成21年岐阜県観光レクリエーション動態調査」

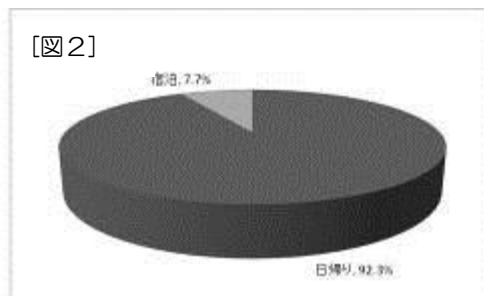


集客数の県内トップは、前年に引き続き土岐プレミアム・アウトレットの439万人となった。[表1]

## (2) 観光客の内訳

### ①日帰り・宿泊別観光客数

平成21年の観光客数は5,419万人であったが、これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は5,016万6千人、宿泊客は402万4千人と日帰り客が全体の92.6%を占めており、昨年よりも日帰り客の割合が0.3ポイント増加した。[図2]

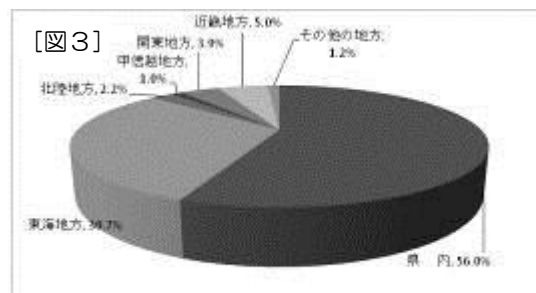


圏域別に見ると、西濃圏域が日帰り客の割合が最も多く（構成比98.4%）、岐阜・中濃・東濃についても日帰り客が9割以上を占める。

一方で飛騨圏域は、日帰り客70.8%、宿泊客29.2%と他圏域に比べ宿泊客の割合が高く、県全体の宿泊客402万4千人のうち210万2千人と全体の52.2%を占めた。

### ②居住地別観光客数

居住地別に見ると、県全体では県内客は3,042万6千人（構成比56.1%）、県外客は2,376万4千人（構成比43.9%）と、県内客が多くを占めたが、飛騨圏域では県外客の割合が67.5%と高い。



県全体では、県外客のうち70.3%が東海地方からの観光客であり、以下近畿地方、関東地方と続いている。

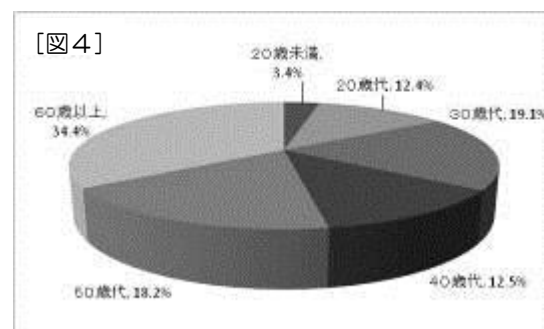
また、東海地方からの観光客の割合が特に高いのは、西濃圏域及び東濃圏域である。

[図3]

### ③男女別・年齢別観光客数

男女別で見ると、男性が2,519万1千人（構成比46.5%）、女性は2,899万9千人（構成比53.5%）と女性が上回り、前年と構成比は変わらなかった。

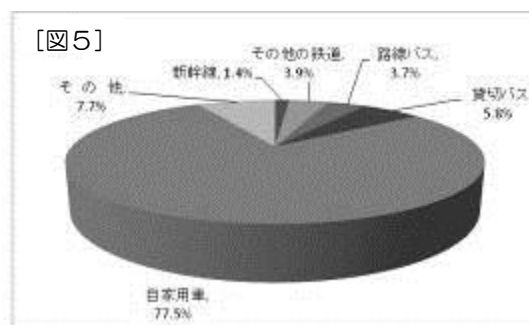
年齢別では、60歳以上が34.4%と最も多く、以下30歳代、50歳代と続いている。



[図4]

#### ④利用交通機関別観光客数

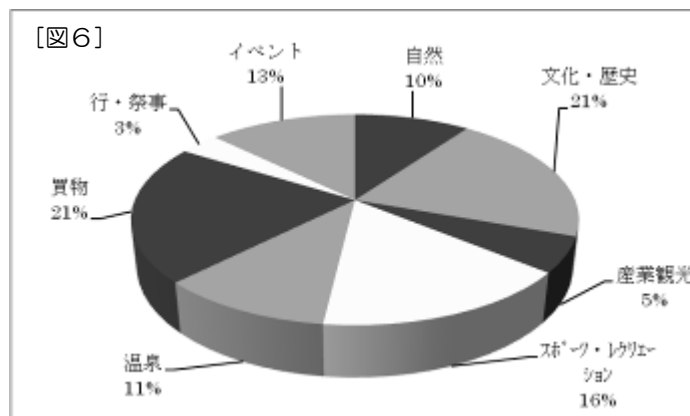
利用交通機関別に見ると、前年に引き続き自家用車が最も多く全体の77.8%を占め前年より増加する一方、鉄道などの公共交通機関は軒並み減少した。これは高速道路料金の休日上限千円効果と考えられる。〔図5〕



#### ⑤観光地分類別観光客数

観光地分類別に見ると、「買物」と「文化・歴史」で全体の41.8%を占め、以下「スポーツ・レクリエーション」、「イベント」、「温泉」、「自然」、「産業観光」、「行・祭事」と続く。

圏域別で見ると、岐阜圏域は「スポーツ・レクリエーション」や「イベント」、西濃圏域は「文化・歴史」や「自然」、中濃圏域は「買物」や「スポーツ・レクリエーション」、東濃圏域は「買物」、飛騨圏域は「文化・歴史」や「温泉」が多い。〔図6〕



### (3) 各圏域の動向

#### ①岐阜圏域

- ・観光客数は1,244万2千人で、前年と比べて32万3千人の減少（対前年比▲2.5%）となった。このうち、日帰り客数は1,170万6千人となり、前年に比べ34万5千人減少（対前年比▲2.9%）する一方、宿泊客数は73万6千人と2万2千人増加（対前年比+3.0%）した。
- ・観光地点別の入込客数（延べ人数）についてみると、岐阜県世界淡水魚園水族館（アクア・トトぎふ）が開館5周年を契機に各種イベントを開催したことにより増加したほか、見頃の時期に天候に恵まれた淡墨桜や、岐阜公園、ファミリーパーク等でも増加した一方、夏場の天候不順、不況等の影響で長良川花火大会等の主要観光地点において減少した結果、圏域全体としても減少したものと考えられる。

#### ②西濃圏域

- ・観光客数は1,207万7千人で、前年と比べて42万8千人の増加（対前年比+

3.7%)となった。このうち、日帰り客数は1,187万7千人となり、前年に比べ46万4千人増加(対前年比+4.1%)する一方、宿泊客数は19万9千人と3万6千人減少(対前年比▲15.4%)した。

- ・観光地点別の入込客数(延べ人数)についてみると、50年ぶりに御開帳が開催された谷汲山華厳寺や、好天に恵まれた海津市のチューリップ祭等で増加したうえ、周遊日帰りツアーが好評な徳山ダムが新たに観光地点に加わったことで、圏域全体では増加したものと考えられる。

### ③中濃圏域

- ・観光客数は1,035万4千人で、前年と比べて15万4千人の増加(対前年比+1.5%)となった。このうち、日帰り客数は985万8千人となり、前年に比べ20万7千人増加(対前年比+2.1%)する一方、宿泊客数は49万6千人と5万2千人減少(対前年比▲9.6%)した。
- ・観光地点別の入込客数(延べ人数)についてみると、7年に1度の御開帳が開催された関善光寺、平成20年にオープンして以来好調である湯の華アイランド、道の駅「美濃にわか茶屋」、中山道太田宿等で増加し、圏域全体では増加したものと考えられる。

### ④東濃圏域

- ・観光客数は1,212万人で、前年と比べて15万5千人の増加(対前年比+1.3%)となった。このうち、日帰り客数は1,162万9千人と、前年に比べ9万6千人増加(対前年比+0.8%)し、宿泊客数も49万1千人と5万9千人増加(対前年比+13.6%)した。
- ・観光地点別の入込客数(延べ人数)についてみると、前年に引き続き集客数県内トップとなった土岐プレミアム・アウトレットが増加したほか、50周年記念として盛大に開催された美濃源氏七夕まつり、道の駅「おばあちゃん市・山岡」等で増加し、圏域全体で増加したものと考えられる。

### ⑤飛騨圏域

- ・観光客数は719万7千人で、前年と比べて51万6千人の減少(対前年比▲6.7%)となった。このうち、日帰り客数は509万6千人と、前年に比べ38万7千人減少(対前年比▲7.1%)し、宿泊客数も210万2千人と12万9千人減少(対前年比▲5.8%)となった。
- ・観光地点別の入込客数(延べ人数)についてみると、道の駅「南飛騨小坂はなもも」等で増加したものの、天気にも恵まれなかった高山祭や、前年から続く世界的不況や円高、新型インフルエンザの流行や夏場の長雨等の影響により、主要な観光地点で軒並み減少した結果、圏域全体で減少したものと考えられる。

[表2] <観光客実人数(推計)>

(単位:万人、%)

	日帰り客数	宿泊客数	観光客数(合計)	対前年比
岐阜圏域	1,170.6	73.6	1,244.2	▲2.5
西濃圏域	1,187.7	19.9	1,207.7	+3.7
中濃圏域	985.8	49.6	1,035.4	+1.5
東濃圏域	1,162.9	49.1	1,212.0	+1.3
飛騨圏域	509.6	210.2	719.7	▲6.7
合計	5,016.6	402.4	5,419.0	▲0.2

※千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

#### (4) 外国人延べ宿泊客数の動向

外国人の延べ宿泊客数は22万8千人で、前年と比べて4万人の減少(対前年比▲14.9%)となり、過去最高を記録した前年には及ばなかったが、過去2番目の高水準となった。前年より減少した原因としては、新型インフルエンザの流行により、日本を含むアジア地域への渡航を敬遠する動きがあったことが考えられる。

最も減少が大きい圏域は、飛騨圏域で2万3千人減少(前年比▲12.0%)したほか、他の圏域も軒並み減少した。

[表3] <外国人延べ宿泊客数の年別推移>

(単位:人)

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
岐阜圏域	48,419	35,340	40,047	41,444	34,615
西濃圏域	28,575	23,194	22,177	23,469	17,685
中濃圏域	8,750	4,974	5,309	9,775	6,123
東濃圏域	5,697	1,736	2,183	4,599	3,544
飛騨圏域	103,646	122,453	151,257	188,647	165,969
県計	195,087	187,697	220,973	267,934	227,936

※1人の宿泊客が圏域内または県内の2箇所宿泊する場合、圏域内または県内で2連泊する場合、宿泊客はそれぞれ2人と数える

#### (5) 観光消費額

平成21年の観光消費額の総額は2,822億99百万円(対前年比▲1.4%)で、うち日帰り客分は1,895億56百万円(対前年比▲0.3%)、宿泊客分は927億43百万円(対前年比▲3.5%)であった。

また、1人当たりの平均消費額は、日帰り客は3,779円(対前年比▲0.4%)、宿泊客は23,050円(対前年比▲0.2%)であった。

宿泊客数が減少し、さらに宿泊客一人当たりの平均消費額も減少したことが、全体の観光消費額の減少につながったと考えられる。

#### (6) 経済波及効果(推計)

平成21年の生産誘発額は4,040億8百万円、就業誘発効果は42,276人となった。

## 2 飛騨・美濃じまん運動実施計画に掲げる目標の達成状況と今後の課題

「飛騨・美濃じまん運動実施計画」（平成20年3月策定）においては、「観光王国飛騨・美濃の実現」を目指すため、次の5つの目標を設定している。

「観光王国飛騨・美濃の実現」を目指すための5つの目標（飛騨・美濃じまん運動実施計画）

観光客数（実人数推計）	5,037万人(H18)	→ 20%増	6,000万人(H24)
宿泊数（実人数推計）	433万人(H18)	→ 20%増	520万人(H24)
観光消費額	2,810億円(H18)	→ 20%増	3,400億円(H24)
外国人宿泊数（延べ人数）	18.8万人(H18)	→ 40%増	26.0万人(H24)
観光に行きたい県	34位(H17)	→	20位以内(H24)

※「観光客数」、「宿泊数」、「観光消費額」、「外国人宿泊数」については、毎年実施している岐阜県観光レクリエーション動態調査の数値。「観光に行きたい県」順位は平成17年度に実施した「岐阜県地域ブランド調査」の結果。

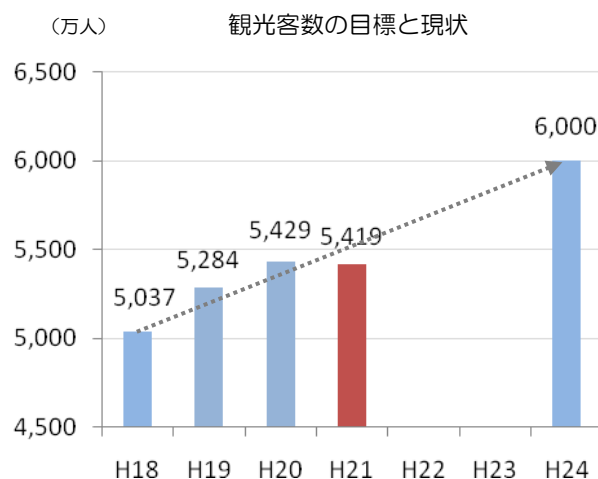
### （1）目標の達成状況

#### ① 観光客数 ～目標水準に近いものの予断を許さない～

平成24年までに、観光客数を6,000万人（岐阜県観光レクリエーション動態調査ベース。以下、特に記述の無い限り同じ。）にするという目標を達成するためには、毎年、前年比3.0%の増加が必要となる。

その場合の、平成21年の目標観光客数は5,504万人となるが、平成21年の実績は5,419万人であり、目標水準を下回っている。

前年比で見ると0.2%減とほぼ横ばいだが、現在の観光客数の水準から目標を達成していくためには、平成22年以降、毎年3.5%増加が必要となり、一層の各種誘客事業の実施が必要である。





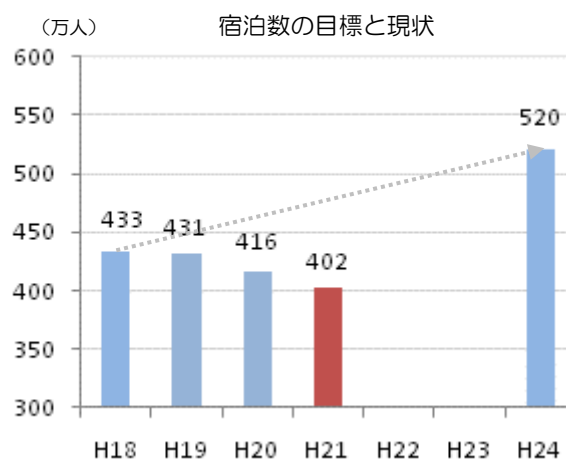
## ② 宿泊客数 ～減少傾向が続いており目標達成に向けて厳しい状況～

平成24年までに、宿泊客数を520万人（年平均3.0%増）にするという目標を設定しているが、本県の宿泊客数は、平成17年以降連続して減少しており、平成21年も前年比3.3%減の402万人となった。

現在の宿泊数の水準から、目標を達成していくためには、平成21年以降、毎年9%増加が必要であり、大変困難な状況にある。

なお、国が平成19年から実施している宿泊旅行統計調査（※）において、平成21年の国全体の延べ宿泊者数は2.7%減少となっており、景気低迷、新型インフルエンザ、天候不順、豪雨災害等により全国的に宿泊客数が伸び悩む年だったと言える。

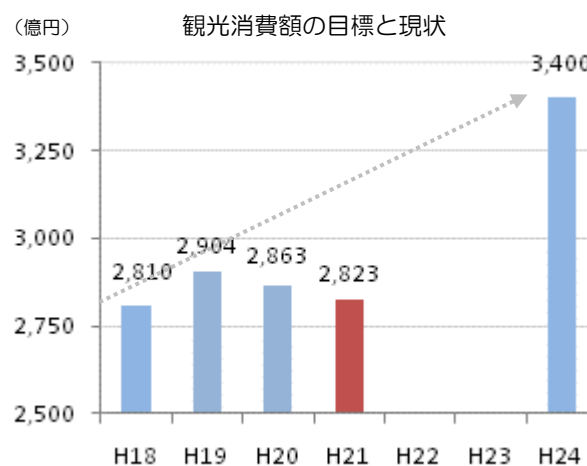
（※）従業者数10名以上のホテル、旅館等を対象としており、本県の観光レクリエーション動態調査の数値とは一致しない。



## ③ 観光消費額 ～宿泊客の消費額が減少し、全体でもやや減少～

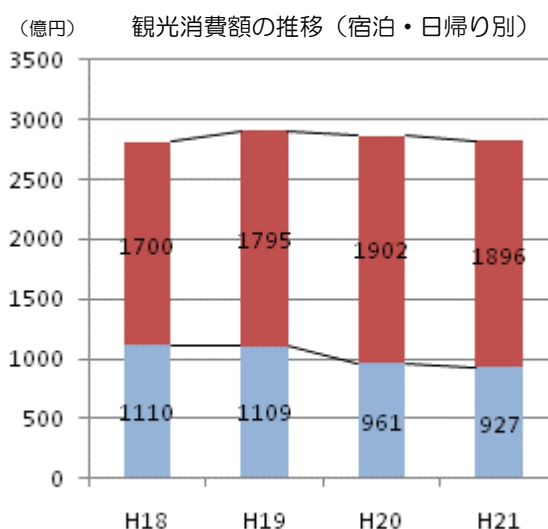
平成24年までに観光消費額を3,400億円にするという目標に対し、平成21年は前年比1.4%減の2,823億円と、平成18年と同水準にまで落ち込んだ。

目標を達成するためには、今後、毎年前年比6.4%増を達成することが必要となり大変厳しい状況にあるといえる。



過去3年間の観光消費額を日帰り・宿泊別で見ると、日帰り客の消費額が、平成18年の1,700億円に対し、平成21年は1,896億円と順調に伸びているのに対し、宿泊客の消費額は平成18年が1,110億円に対し平成21年は927億円と大幅に減少している。

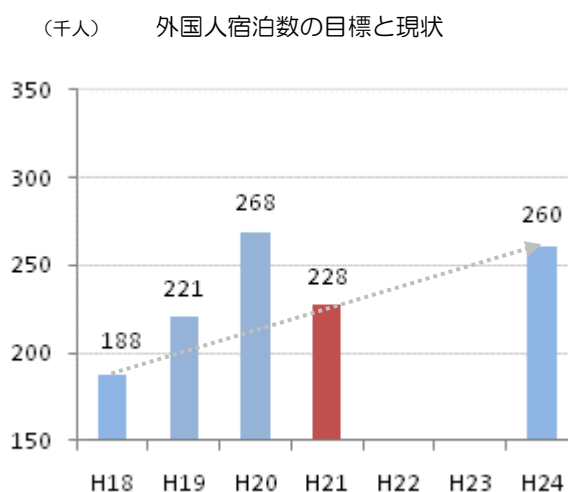
(2)で示したように、宿泊客そのものが減少していることが、消費額の減少要因となっているが、加えて、宿泊客一人当たりの消費額が平成18年の25,642円から平成21年には23,050円と、11.2%減少していることも、全体の消費額減少の要因となっている。



#### ④ 外国人宿泊数 ～目標を上回る水準で推移するも、秋以降減少傾向にある～

平成24年までに、外国人宿泊数(延べ)を26万人にするという目標に対し、平成20年の段階で既に目標を達成したものの、平成21年の実績は、22万8千人で前年比14.9%と減少した。

国全体においても同様の傾向であり、日本政府観光局(JNTO)の訪日外国人旅行者数(推計値)も前年比18.7%減と減少しており、世界的な景気低迷と新型インフルエンザの流行、円高などが影響したと考えられる。



## ⑤ 観光に行ってみたい県

「観光に行ってみたい県」順位を、34位から20位以内を目指すこととしているが、(株)ブランド総合研究所が実施している「地域ブランド調査2010」(※)によれば、本県の「観光意欲度都道府県ランキング」は32位となっている。

同調査では、「観光意欲度」の他にも、「魅力度」「認知度」「情報接触度」「産品購入意欲度」といった、観光意欲度向上に関連する項目について調査を行っているが、本県の順位はいずれも30～40位前後であり、「観光意欲度」を向上させていくためには、「魅力」そのものを磨き上げることと合わせて、「魅力」をいかに認知してもらうかが重要なポイントとなる。

また、国の宿泊旅行統計調査において宿泊者数が上位にランクされている都道府県の多くは、「地域ブランド調査2010」のこれら5項目においても上位にランクインされている(※※)ことから、宿泊者増加対策の観点からも、本県の魅力をいかに発信し、認知してもらうか、戦略的な取組が必要と考えられる。

※「観光に行ってみたい県」順位は、平成17年度に本県が「岐阜県ブランド戦略」を策定するための基礎資料として、(株)ブランド総合研究所に委託して実施した「岐阜県地域ブランド調査」の結果によるものであるが、「岐阜県地域ブランド調査」については、それ以降実施していないため、同社が実施している「地域ブランド調査」にいおける「観光意欲度都道府県ランキング」を参考指標とする。

※※宿泊者統計上位15位までの都道府県中

地域ブランド調査の5項目(「観光意欲度」「魅力度」「認知度」「情報接触度」「産品購入意欲度」)で

- ・5項目すべてが15位までにランクインした都道府県数：6
- ・4項目が15位までにランクインした都道府県数：3
- ・3項目が15位までにランクインした都道府県数：2
- ・2項目が15位までにランクインした都道府県数：2
- ・1項目が15位までにランクインした都道府県数：1

「地域ブランド調査2010」各項目順位と、宿泊旅行統計調査における宿泊数順位の比較

	宿泊旅行統計調査 (観光庁)		地域ブランド調査2010 <観光関連5項目> (株式会社ブランド総合研究所)						
	宿泊者数		魅力度	認知度	観光意欲度	情報接触度	産品購入意欲度		
1	東京都	34,527	北海道	東京都	北海道	東京都	北海道	北海道	
2	北海道	24,565	京都府	北海道	京都府	北海道	京都府	京都府	
3	大阪府	15,707	沖縄県	大阪府	沖縄県	大阪府	大阪府	沖縄県	
4	千葉県	15,522	東京都	京都府	奈良県	宮崎県	静岡県	静岡県	
5	静岡県	13,394	奈良県	神奈川県	東京都	沖縄県	宮城県	宮城県	
6	沖縄県	11,506	神奈川県	奈良県	長崎県	京都府	山形県	山形県	
7	神奈川県	11,381	大阪府	愛知県	大阪府	奈良県	宮崎県	宮崎県	
8	長野県	9,858	兵庫県	千葉県	神奈川県	神奈川県	大阪府	大阪府	
9	愛知県	9,397	長崎県	兵庫県	福岡県	千葉県	山梨県	山梨県	
10	福岡県	8,860	長野県	静岡県	長野県	愛知県	長崎県	長崎県	
11	京都府	8,537	静岡県	沖縄県	宮崎県	兵庫県	新潟県	新潟県	
12	兵庫県	8,283	福岡県	福岡県	青森県	静岡県	広島県	広島県	
13	新潟県	7,277	宮城県	長野県	静岡県	福岡県	福岡県	福岡県	
14	福島県	7,124	千葉県	広島県	鹿児島県	長崎県	青森県	青森県	
15	宮城県	6,606	青森県	埼玉県	兵庫県	鹿児島県	秋田県	秋田県	
29	岐阜県	3,600	39 岐阜県	32 岐阜県	32 岐阜県	39 岐阜県	42 岐阜県	42 岐阜県	
算 出 手 法 等	従業員数10人以上の ホテル、旅館等10,030施設を対象に調査 を実施。延べ人数集計		有効回収数 34,257人(20代~60代消費者を対象)に対するインターネット調査						
			問:「どの程度魅力を感じますか」? 算出式:100点×「とても魅力的」回答者割合+50点×「やや魅力的」回答者割合	問:「どの程度ご存じですか」 算出式:100点×「よく知っている」回答者割合+75点×「知っている」回答者割合+50点×「少しだけ知っている」回答者+25点×「名前だけ知っている」回答者割合	問:「今後、観光や旅行に行きたいと思いませんか」 算出式:100点×「ぜひ行ってみたい」回答者割合+50点×「機会があったら行ってみたい」回答者割合	問:「過去1年間に、情報、話題などを見たり聞いたりしたことがありますか」 算出式:100点×「何度も見聞きした」回答者割合+50点×「見聞きしたことがある」回答者割合	問:「それぞれの地域で、あなたが購入したいものがあれば、具体的な産品名をお書き下さい」(食品、食品以外の産品各3品まで) 算出式:(食品+食品以外産品記入数)/サンプル数×100		

(2) 目標の達成に向けた今後の課題

目標の達成状況をみると、観光客数は目標水準に近づいているものの、宿泊客数は減少傾向にあり、それに伴い観光消費額も伸び悩んでいることから、いかに宿泊客を増加させるかが課題である。

宿泊客増加対策として、まずは岐阜県に泊ってみたいと思われる動機付けの強化のため、県の魅力を効果的に発信しイメージアップに繋げることが必要である。また、県内での滞在時間がより長くなるよう、点在する観光地を結びつけ地域一帯での魅力の向上、滞在して体験したいと思われる仕組みの創設も必要である。



# 2

## 「観光王国飛騨・美濃」に向けて実施した主な取組 (6つのプロジェクト別)

### 1 岐阜の宝もの認定プロジェクト

#### ■岐阜の宝もの認定事業の展開

飛騨・美濃じまん運動を具体的に推進するため、県民一人ひとりが考えるふるさとのじまを、全国に通用する観光資源として磨きをかけ、「岐阜の宝もの」として情報発信する岐阜の宝もの認定事業に取り組んでいる。

平成19年度には、1,240件を超える応募のあった「ふるさとのじまん」の中から今後の観光振興につながる27件を「じまんの原石」として選定した。

平成20年8月には、「じまんの原石」の中から現地調査や県民の皆さんからの意見を反映させ、「小坂の滝めぐり（下呂市小坂町）」を「岐阜の宝もの」第1号に認定したほか、他の観光資源との組み合わせや物語性を付加する取り組みが行われれば、「岐阜の宝もの」になる可能性があるものを、「明日の宝もの」として4件認定し、「飛騨・美濃じまんミーティング」で発表した。

平成21年には、新たに応募のあった571件の「ふるさとのじまん」から17件の「じまんの原石」を選定するとともに、これまでに選定した「じまんの原石」から「岐阜の宝もの」として2件、「明日の宝もの」として2件を認定した。



飛騨・美濃じまん **岐阜の宝もの**  
 全国に通用する  
 県民が誇るふるさとのじまん

**小坂の滝めぐり**  
 Oshika Falls

【小坂の滝めぐり】下呂市  
 日本一深い谷間である下呂市小坂町。豊かな自然と蒼蒼の大地の風景と森からなり、そのため50以上の滝が200ヶ所あり、中でも「日本の滝百選」の一つ「銀花の滝」を始め、「日本滝歩道」の「瀧川形原林道歩道」、「森の巨人たち」の「天冠の大ヒノキ」等すばらしい自然環境がたくさんあります。NPO法人飛騨小坂200選では、熱心者から申請まで受けることができる事務局がサポートを行っています。

**認定理由**

- 1 圧倒的な自然を体験できる貴重な資源であること。
- 2 観光的交通の便がよいため「ふるさとのじまん」など、県民の観光資源と結びつけることで、さらに磨きをかけることができること。
- 3 滝の数が日本屈指であり、「話題性」のイメージを打ち出すことができること。
- 4 NPOによる環境教育やガイドツアーを実施している体制が確立されており、情報、中間、上乗へとステップアップしていく楽しさや、宿泊付きの滝めぐりツアーなど、多様なプログラムを数多く提供できる可能性があること。

「岐阜の宝もの」になると期待されるふるさとのじまん **明日の宝もの**

**川野**  
 Kawano  
 川野の温泉  
 川野の温泉は、岐阜県唯一の天然温泉であり、その湯は「日本三大名湯」の一つとして知られています。また、川野には「川野の滝」や「川野の森」など、豊かな自然環境が広がっています。NPO法人川野温泉では、観光客のニーズに応じた様々なサービスを提供しています。

**八時**  
 Yatsuji  
 八時の温泉  
 八時の温泉は、岐阜県唯一の天然温泉であり、その湯は「日本三大名湯」の一つとして知られています。また、八時には「八時の滝」や「八時の森」など、豊かな自然環境が広がっています。NPO法人八時温泉では、観光客のニーズに応じた様々なサービスを提供しています。

**中山道**  
 Nakasendo  
 中山道の温泉  
 中山道の温泉は、岐阜県唯一の天然温泉であり、その湯は「日本三大名湯」の一つとして知られています。また、中山道には「中山道の滝」や「中山道の森」など、豊かな自然環境が広がっています。NPO法人中山道温泉では、観光客のニーズに応じた様々なサービスを提供しています。

**飛上**  
 Tobikami  
 飛上の温泉  
 飛上の温泉は、岐阜県唯一の天然温泉であり、その湯は「日本三大名湯」の一つとして知られています。また、飛上には「飛上の滝」や「飛上の森」など、豊かな自然環境が広がっています。NPO法人飛上温泉では、観光客のニーズに応じた様々なサービスを提供しています。

○平成21年度「岐阜の宝もの（じまんの原石）」認定の流れ

- ①県民から571件の「ふるさとじまん」を募集（21年1～2月）
- ②飛騨・美濃じまん地域会議で「じまんの原石」候補として99件を推進（3月）
- ③「岐阜の宝もの」認定委員会認定専門委員の書類審査と合議によりプレゼン審査対象39件を選定（4～7月）
- ④認定専門委員によるプレゼンテーション審査（8月6日）
- ⑤「岐阜の宝もの」認定委員会において「じまんの原石」17件を決定（8月11日）
- ⑥第2回飛騨・美濃じまんミーティングにおいて「じまんの原石」17件を発表（8月22日）
- ⑦認定専門委員による「じまんの原石」現地調査（10～11月）
- ⑧認定専門委員の合議により「岐阜の宝もの」「明日の宝もの」認定案を作成（12月）
- ⑨各圏域の飛騨・美濃じまん地域会議代表者との意見交換（22年1月29日）
- ⑩「岐阜の宝もの」認定委員会において「岐阜の宝もの」「明日の宝もの」各2件を決定（2月1日）
- ⑪第3回飛騨・美濃じまんミーティングで「岐阜の宝もの」「明日の宝もの」を決定

【参考：じまんの原石】

〔平成20年3月認定：27件〕

川原町界限（岐阜市）、美濃竹鼻まつり・ふじまつり（羽島市）、各務原キムチで都市おこし（各務原市）、伊自良連柿・富有柿・おふくろ柿（山県市、瑞穂市、本巣市）、木曾川凧揚げ大会と木曾川エリア（笠松町、岐南町）、ベーめん（海津市）、谷汲門前町（揖斐川町）、中山道赤坂宿・木柁（大垣市）、「おちょぼさん」門前町（海津市）、徳山ダム（揖斐川町）、薬草（揖斐川町）、郡上鮎（郡上市）、食品サンプル（郡上市）、神と仏の里いとしろ（郡上市）、八百津のおやつ（八百津町）、四季彩街道（白川町）、美濃焼と日本酒の融合「美濃陶酔」（多治見市）、土岐市の窯元めぐり（土岐市）、中津川の栗きんとん（中津川市）、岩村城址と岩村城下町・温故知新 大正100年の誘い（恵那市）、馬籠宿・中山道（中津川市、恵那市、瑞浪市）、ふるさと体験飛騨高山（高山市）、棚田と板倉の風景と山里文化（飛騨市）、三湿原回廊（飛騨市）、ケイちゃん（下呂市）、小坂の滝めぐり（下呂市）、龍の瞳（下呂市）

〔平成21年8月認定：17件〕

養老鉄道（大垣市、海津市、養老町、神戸町、揖斐川町、池田町）、フィールドミュージアムで魅力あるまちへ（関市）、笠原のタイル（多治見市）、美濃焼窯場めぐり（多治見市、土岐市）、羽島市歴史民俗資料館・羽島市映画資料館（羽島市）、中山道4宿（岐阜市、各務原市、瑞穂市）、中山道と太田宿、御嶽宿、伏見宿（美濃加茂市、御嵩町、可児市、坂祝町）、東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋（瑞穂市、恵那市、中津川市）、東山寺町と文化財めぐり（高山市）、乗鞍山麓五色ヶ原の森（高山市）、天生県

立自然公園（飛騨市）、まちの名物つるむらさきうどん（関市）、山岡細寒天及び恵那山麓寒天豚（恵那市）、大垣の湧水・地下水（大垣市）、住吉燈台・船町港・赤坂港（大垣市）、水まんじゅう（大垣市）、水屋群などの風景と輪中文化（大垣市）

#### ■飛騨・美濃観光大使を活用した情報発信

平成22年2月13日に「第3回飛騨・美濃じまんミーティング～岐阜の宝もの認定式～」を開催し、飛騨・美濃観光大使の熊田曜子さんを招き、「飛騨・美濃」の魅力を全国に向けて発信。認定式では、熊田さんから「生まれも育ちも岐阜なので、小さい頃から長良川ではよく遊んでいた。特に長良川の花火大会は大好きで、今でも毎年見に行っている」など、岐阜の思い出やじまを語っていただいた。

また、平成21年11月21日に御嵩町で開催された中山道ウォーキングイベントに飛騨・美濃観光大使の勅使川原郁恵さんを招き、参加者約600名と御嶽宿周辺約6kmをウォーキング、メイン会場では、県内産の食材を用いて、勅使川原さんが考案したレシピによる「大使オリジナル弁当」を発売するなど、岐阜の魅力を広くPRした。



#### ■中山道統一デザイン案内標識設置の促進、PR

「明日の宝もの」に認定された、「中山道」をPRし、わかりやすく案内するため、市町と連携しながら、中山道統一デザイン案内標識の設置を推進するとともに、「中山道クリーンウォーキング」の主催やガイドマップの作成等PR事業を展開した。

- ・統一デザイン案内標識を県では60基、市町では10基を設置
- ・中山道案内ステッカーを作成し、案内標識の設置が物理的に不可能な箇所ガードレールや照明灯等の道路施設に貼付
- ・御嵩町が主催する「御嵩宿往来（みたけじゅくうおーく）」と連携をして、「御嵩宿往来」に参加される方にゴミ袋を配布し、ゴミ拾いに協力していただく、「中山道クリーンウォーキング」を主催（11月21日）
- ・岐阜県十七宿散策ガイドを10,000部作成

## 2 飛騨・美濃じまん観光誘客プロジェクト

### ■飛騨・美濃じまん観光キャンペーンの展開

○食と水 重点キャンペーンの展開（7～12月）

- ・キャンペーンガイドブック「ぎふ歩録 season1 夏」（7～9月）、「ぎふ歩録 season2 秋」（10～2月）を計14万部作成し、キャラバン、道の駅、旅行店などで配布
- ・全国PRキャラバンの実施  
重点キャンペーン期間中に、東京、大阪、名古屋等で計29回実施
- ・大手インターネット旅行サイトでタイアップ特集ページを展開  
10/30～12/30：楽天トラベルで「食と水」をテーマとした特集ページ展開
- ・大手旅行雑誌にタイアップ特集ページを展開  
2/1発売「東海じゃらん」3月号で「岐阜県別冊綴じ込み企画特集」を掲載
- ・ぎふの味・伝承名人による秋のキャンペーンオリジナルメニューの創作
- ・大手グルメサイトで岐阜の「食」の特集を展開  
12/4～31：ぐるなびで「ぎふの味・伝承名人による秋のキャンペーンオリジナルメニューの特集ページ」を展開
- ・旅館おすすめの店、女将おすすめの店、ぎふの味・伝承名人が所属する店など、プロが勧める「食」を専用HPにより情報発信
- ・旅行商品造成支援、宿泊者プレゼントなど



「ぎふ歩録 season1 夏」



「season2 秋」



○近隣県等との連携による広域観光の推進

<富山県>

- ・東海北陸自動車道全通1周年記念イベントの実施
- ・ぎふ富山交流バスツアーの実施（相互に主催するツアーを2コースずつ実施）
- ・道の駅スタンプラリーの実施、共同観光キャンペーンの展開

<石川県、福井県>

- ・旅行雑誌社とタイアップして3県をまたがる白山地域を中心としたガイドブック「まっぷるマガジン白山（3/30発売）」の作成
- ・3県をまたがる白山地域を中心とした広域観光マップの作成

<愛知県>

- ・武将観光を推進する旅行商品造成の促進  
「信長の軌跡を巡るツアー」（名鉄観光主催）、9月中に4日間企画し209人参加

<滋賀県>

- ・伊吹山を中心とした広域観光マップの作成・配布



○民間と連携したドライブ旅行の推進

本県の交流人口の9割が、「車」での来訪者であることを踏まえて、トヨタ自動車(株)、JTB等が会員企業となっている自動車旅行推進機構（カーたび機構）による「うごく！日本<生>たびキャンペーン」と連携し、ドライブ情報、特典クーポンを掲載した<生>たび本やく<生>たびWEBの作成・配布、プレゼント企画等に協力し、ドライブ旅行者の誘致を推進。（10月1日～12月31日）



<生>たび本



<生>たびWEB

○産業観光の推進

愛知県、三重県と連携して産業観光施設におけるスタンプラリーを実施した。  
（7/18～9/30、県内参加施設数：70施設）

## ■グリーン・ツーリズムの推進～岐阜県のグリーン・ツーリズムを全国に発信～

「都市と農村の交流」による、農山村地域の活性化を図るため、グリーン・ツーリズムを推進した。

### ○受入体制の整備

- ・学校関係者を対象とした現地プロモーション活動を実施するなど、子ども農山漁村交流プロジェクト（総務省・文科省・農水省連携）の受入体制を整備（郡上市、高山市、東白川村、白川村）。
- ・農家が運営し、農林漁業体験メニューの提供を行い、地域の農林水産物の食事を提供する民宿などを登録する県独自制度「岐阜県農林漁業体験施設登録制度」（平成19年6月創設）に72施設を登録。
- ・取組団体のレベル向上を目的に研修会を開催（3月8～9日、30名参加）。
- ・農村と企業（都市住民）との交流、協働活動を推進する「ぎふ一村一企業パートナーシップ運動」を一層推進するため、「ぎふ一村一企業パートナーシップ運動登録制度」を創設（3月）し、新たに4団体（累計8団体）を登録。

### ○情報発信の強化

- ・企業や都市住民に対して農村情報を提供するメルマガ「ぎふの田舎へいこう！」通信を毎月発刊（3月・24号1, 210部）。
- ・岐阜県農林漁業体験施設をPRするため、当該施設利用者を対象に県産品プレゼントする「ぎふの田舎へいこう！」キャンペーンを実施（7～9月）。
- ・冬期の新たな田舎体感企画の立案と実践を支援するとともに、これら企画に参加を呼びかける「ぎふの田舎へいこう！キャンペーン2009 in Winter」を実施。

## ■小学生の農山漁村での長期宿泊体験の受入れ推進

全国2万3千校の小学生120万人が、農山漁村で1週間程度の長期宿泊体験活動を行うことを目指す、国の「子ども農山漁村交流プロジェクト」を推進した。

### ○地域受入協議会の活動支援

- ・ふるさと体験 飛騨高山（高山市／19年3月設立）
- ・郡上・田舎の学校（郡上市／20年1月設立）
- ・東白川長期宿泊体験協議会（東白川村／21年4月設立）

### ○学校関係者に対するプロモーション活動の実施

- ・上記受入地域協議会の活動紹介と意見交換の場の設定（1回）

### ○地域受入協議会の設立支援

- ・白川郷まるごと体験協議会（白川村／22年3月設立）

## ■「岐阜フィルムコミッション事業」の推進

岐阜県の新たな地域資源の活用や観光交流につながるよう、映画やテレビ番組をはじめとする映像作品を支援する「フィルムコミッション事業」を推進。平成21年度は、18作品の撮影を誘致した。

＜誘致した主な作品＞

○「ゼロの焦点」（撮影日：4／8）[映画]

監督：犬童一心

出演：広末涼子・中谷美紀・木村多江 他

概要：松本清張の長編推理小説の映画化

ロケ地：飛騨市古川町

公開：11月14日公開



「さよなら夏休み」撮影風景

○「さよなら夏休み」（撮影日：8／19～9／2）[映画]

出演：緒方直人、立花美優、要潤、中山忍、古谷一行 他

概要：郡上を舞台に少年の心の成長を描いたヒューマン・ドラマ

ロケ地：郡上市八幡町等

公開日：平成22年8月21日公開

## ■iPhone を活用した新たな観光スタイルの展開

iPhone などスマートフォン上で作動するアプリケーションソフト「セカイカメラ」で閲覧可能な、位置情報を付加した観光施設・飲食店等の情報（通称：エアタグ）を県下全域に3,711件整備した。既にいくつかの市町村で観光イベント等への活用が図られている。

○主な活用事例：「クイズでおさんぽ」（高山市）

「iPhone を活用した史跡巡り」（関ヶ原町）

「謎解きクイズラリー」（岐阜市）

## ■様々な広報媒体を活用した「飛騨・美濃じまん」の発信

○テレビ

- ・県政広報テレビ番組で、飛騨・美濃じまん運動の取り組みや、岐阜の宝もの・じまんの原石に選定されたものを紹介

※岐阜放送

「ぎふ・オンライン」5/1、5/8、5/22、6/12、8/28、9/18、1/22、2/12

「ぎふ最前線」3/21

○ラジオ

- ・県政広報ラジオ番組で、飛騨・美濃じまん運動の取り組みや、岐阜の宝もの・じまんの原石に選定されたものを紹介

※岐阜FM

「GIFU インフォメーション」 7/30、8/5、9/15、9/28、10/5、11/19、12/15

「ほっとぬくもり岐阜」 4/4、6/6、6/20

※岐阜ラジオ

「県政の窓」 7/1、8/18、10/6

○大手ショッピングサイトの楽天市場「まち楽」において、岐阜県の観光・物産情報等を発信（H21.1.16～）

○フリーペーパー・雑誌等の刊行物

- ・県内外の主要フリーペーパー（咲楽 [岐阜・愛知県内の各地域版] 7・8・10・11月号、ぷらざ 8・11月号、VIVO 夏号・冬号、GIFUTO 9月号、きらら 4・1月号、ゆこゆこ中部版 4月号）、県内向け情報誌（OREILLE 9月号）、中京圏向け情報誌（東海じゃらん 8月号、時局 7月号）、全国向け情報誌（日経 WOMAN 6月号）、関西圏向け日刊紙（デイリースポーツ 5月21日号）、全国向け業界紙（観光経済新聞 6月19日号）等へ情報提供し、記事として掲載

○岐阜県メールマガジンにおいて、イベント・観光情報等を発信（毎月発行）



### 3 飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト

#### ■観光・食・モノを一体化した、顔の見えるプロモーションの展開

平成21年度は、シンガポール、香港、タイ（バンコク）を重点国・地域に位置付け、知事、副知事が現地に赴いて、現地旅行会社、航空会社、メディア関係者等に対してPR事業を行った。

##### ○シンガポール（横井副知事が渡航）

- ・期間：平成21年8月31日(月)～9月3日(木)
- ・内容：観光セミナー・商談会・交流会 開催（ホテル「スイテル・ザ・スタンフォード」）  
現地主要旅行社・航空会社への個別プロモーション

##### ○香港・タイ（バンコク）（知事が渡航）

- ・期間：平成21年11月16日(月)～20日(金)
- ・内容：＜香港＞
  - ・県産品フェア（農産物、地場産品販売）の開催（スーパーマーケット「<sup>いっ</sup>田YATA」）
  - ・飛騨牛メニュー化レセプション開催（第3号飛騨牛推奨店レストラン「<sup>すしめう</sup>鮪雄」）＜タイ（バンコク）＞
  - ・岐阜県レセプション開催（駐タイ日本国大使公邸）
  - ・岐阜県フェア（農産物販売）開催（高級百貨店「サイアム・パラゴン」）
  - ・観光セミナー・商談会・交流会 開催（ホテル「センタラ・グランド」）



岐阜県フェア（タイ・バンコク）

#### ■海外誘客戦略推進事業、国際観光対策事業の推進

岐阜県の認知度を高め、海外から岐阜県への観光誘客を推進するため、国の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(VJC)や近隣県と連携しながら、台湾、中国、韓国、香港、

タイ、シンガポール、フランス等を重点市場と位置付け、国別の市場特性に応じた誘客活動を展開した。

- 第4回日中韓観光大臣会合の開催（国・中部地域連携）
  - ・閉幕晩餐会、県内観光資源視察の開催（県：10月）
- 岐阜県観光セミナー・商談会の開催
  - ・シンガポール（県：9月）
  - ・タイ（県：11月）
- メディア・旅行業者の招聘
  - ・「Yokoso!Japan トラベルマートファムトリップ」（春1回。参加国：中国、香港、台湾、韓国、タイ、シンガポール、インドネシア、マレーシア、オーストラリア、フランス、イタリア、デンマーク、ロシア、カナダ）など
- 国際観光展等への出展
  - ・北京国際旅遊博覧会への出展（中国）（中部広域：6月）
  - ・台北国際旅行博への出展（台湾）（中部広域：10月）
  - ・NATAS Holidays への出展（シンガポール）（県：8月、2月）
  - ・韓国国際観光展への出展（韓国）（中部広域：6月）
  - ・パリ国際観光博覧会への出展（フランス）（県：3月）

#### ■インターネットを活用した販路開拓の促進

県内中小企業の販路拡大を図るため、平成21年11月に楽天(株)と包括連携協定を締結し、インターネットを活用した国内外の市場開拓や売り上げ拡大に向けた取組を支援した。

##### 【Web販路拡大セミナーの開催】

- 「インターネットを活用した販路拡大セミナー」
  - ・開催期間：平成21年11月
  - ・場 所：未来会館（岐阜市）ほか各圏域4会場
  - ・参加者：5会場合計 319社363人
  - ・内 容：楽天スタッフからの販路拡大セミナーに加え、開催地近隣の楽天成功店舗の店長が体験を発表
- 「インターネットを活用した販路拡大セミナー&パネルディスカッション」
  - ・開催日：平成22年3月
  - ・場 所：長良川国際会議場（岐阜市）
  - ・参加者：約610名
  - ・内 容：楽天スタッフによる販路拡大セミナーに加え、楽天ショップ・オブ・ザ・イヤー受賞店舗を含む成功店舗5名によるパネルディスカッションを実施

### 【Web物産展等の開催】

#### ○「岐阜大物産展」の開催

- ・開催期間：平成21年11月25日～12月25日
- ・参加店舗：32品目25店舗
- ・参加店舗総売上：約7,300万円



#### ○海外向け物産観光展「岐阜県クラフト観光展」の開催

- ・開催期間：平成22年2月26日～3月29日
- ・ページ作成言語：日本語、中国語（簡体字・繁体字）
- ・参加店舗：27店舗（クラフト展）、13施設（観光展）

### ■アセアン地域への農産物等の輸出促進

県産農産物の販売促進とブランド化を推進するため、岐阜県農林水産物輸出促進協議会（※1）が中心となり、これまで取り組んできた香港に加え、平成21年度から輸出先をタイ、シンガポールへも拡大して、富有柿、飛騨牛を中心に農産物の輸出促進に関する取組を実施。

さらに、知事のトップセールスにより、現地の情報発信力の高い要人が集まるレセプションでの県産農産物のPRや現地の百貨店における岐阜県フェアの開催を通じて、認知の獲得や販路の開拓に対する取組を実施し、柿、飛騨牛ともに品質面で高い評価を得た。

#### ○平成21年度の輸出実績

柿：輸出量9t、販売店舗：香港4店舗、タイ2店舗、シンガポール1店舗

飛騨牛：輸出量386kg、飛騨牛海外推奨店（※2）：香港3店舗等

（※1）岐阜県農林水産物輸出促進協議会とは、県農産物等の輸出促進を目的に平成16年に、県、農業団体、食品産業団体、ジェトロ岐阜等8団体により設置された団体のこと。

(※2) 飛驒牛海外推奨店とは、飛驒牛の銘柄化を進めている飛驒牛銘柄推進協議会が認定する海外で飛驒牛を取り扱う店舗のこと。



[タイの岐阜県フェアでの富有柿PR]



[シカゴールの観光交流会での飛驒牛PR]



## 4 県産品ブランド力向上プロジェクト

### ■岐阜県ブランド戦略に基づき、チームの派遣等によるブランド化支援

岐阜県ブランド戦略に基づき、ブランド構築に取り組む方々（中小企業者、生産者、組合、生産振興会、商工会議所・商工会、市町村等）からの要請に応じ、関係部局が連携してチームを派遣し、個別具体的な支援を実施した。

また、ブランド構築活動に関する各種相談への部局連携的な対応として、ワンストップサービス支援を実施した。

#### ○岐阜県ブランド戦略推進チーム

##### <派遣先>

- ・キムチ日本一の都市おこし研究会（各務原キムチ）【19年～】

派遣回数 19年：3回、20年：4回、21年：1回

- ・八百津町商工会（八百津のおやつ）【19年～】

派遣回数 19年：5回、20年：5回、21年：2回

- ・荘川そば振興組合（荘川そば）【20年～】

派遣回数 20年：3回、21年：1回

##### <支援内容>

ブランド化計画策定に向けた取組み支援、販路開拓に向けたPR支援等。

#### ○ワンストップサービス

##### <相談対応>

19年：4件、20年：2件、21年：7件

##### <支援内容>

国、県等による支援制度及びその効果的な活用方策の紹介等。



「八百津のおやつ」粟いむ大福

### ■「飛騨・美濃すぐれもの」認定、販売促進

優良な県産品を「飛騨・美濃すぐれもの」として認定し、県産品の看板商品としてPRするとともに、百貨店催事やイベントへの出展など消費者と直結した販売戦略を展開した。

#### ○「飛騨・美濃すぐれもの」の募集、認定。

平成22年3月末現在認定数：133点（食品120点 非食品13点）

#### ○販売、PR支援

- ・県産品PR事業を活用し、百貨店・量販店等への出店支援。
- ・楽天市場ショップへの出店支援。
- ・楽天市場でのバナー広告支援。
- ・飛騨・美濃すぐれものPR冊子作成。
- ・フリーマガジンタイアップ広告事業。

・GKプロジェクト（岐阜県ーキリンビール共同プロジェクト）で活用PR。

### ■「県産品愛用推進宣言の店」の指定

県産品愛用による地産地消を推進するため、積極的に取り組む店舗の普及・活動を支援するとともに、県民の県産品に対する理解と認識を深め、県産品の消費拡大を図った。

＜平成21年度の取組み＞

平成22年3月末現在で、247店舗を指定

### ■県産品の料理指定店・販売指定店を拡大促進

飛騨牛、奥美濃古地鶏等の消費拡大のため、料理指定店・販売指定店を拡大。

区分		17年3月 (計画初年度)	22年3月	増加数
飛騨牛	料理指定店 (H2～)	125店舗	167店舗	42店舗
	販売指定店 (H元～)	212店舗	206店舗	46店舗
奥美濃古地鶏	料理指定店 (H6～)	47店舗	53店舗	6店舗
	販売指定店 (H6～)	55店舗	55店舗	0店舗
飛騨けんとん	料理指定店 (H10～)	13店舗	25店舗	12店舗
美濃けんとん	販売指定店 (H10～)	53店舗	58店舗	5店舗
飛騨清流河ふぐ	取扱料理店 (H12～)	10店舗	12店舗	2店舗

### ■都内のセレクトショップと連携した県産品の販売強化

県内モノづくり企業の商品開発力の向上や、首都圏における利益率の高い販路開拓をはじめとする包括的な連携協力を進めるため、メイド・イン・ジャパン・プロジェクト（株）との連携協力に関する協定を締結した。（平成22年2月24日）

メイド・イン・ジャパン・プロジェクト（株）は、日本のモノづくり文化の継承と発展を経営ビジョンに掲げ、首都圏のセレクトショップ運営、インターネット販売、モノづくりコンサルタントなどの幅広い事業を通して、日本製商品の流通促進を手がける事業者である。セレクトショップを運営する民間流通事業者と都道府県が包括的な連携協定を締結するのは、全国でも初めてのことである。



## ■農産物トップブランドづくり

### ○かき

#### <目的>

「富有柿」最高の品質である「袋掛け富有柿」のトップブランド化により、岐阜柿全体の生産拡大を進め、生産者の経営安定に結びつける。

#### <取組>

「袋掛け富有柿」を厳選した「果宝柿」をトップブランドとして位置づけ、「果宝柿」の生産拡大に向け、高品質果実生産のための栽培技術マニュアルを作成した。また、消費宣伝資材（ポスター、幟）を作成し、各種イベント等においてPRを実施した。

平成21年産の柿は、梅雨明けの遅れや暖秋の影響を受け、果実糖度が低水準となり、「果宝柿」の品質基準を満たした果実の販売は189個に止まった。



果宝柿

### ○くり

#### <目的>

渋皮が剥きやすい特性を持つ新品種「ぼろたん」の作付拡大や大苗生産技術の開発を通じて、県内くり産地の活性化を図る。

#### <取組>

「岐阜県くり生産者大会」を開催し（平成21年8月6日、山県市）、「ぼろたん」の導入拡大とさらなる有利販売化に向けた技術研鑽・方策検討や産地間交流等を行った。

また、県下各産地における「ぼろたん」苗木導入を支援（導入本数631本）するとともに、早期成園化並びに植栽労力低減を図るための大苗生産技術の確立に向け、中山間農業研究所中津川支所にて調査研究に着手した。

### ○宿儺かぼちゃ

#### <目的>

「宿儺かぼちゃ」を、飛騨地域の、ほうれんそう、夏秋トマトに次ぐ第3の品目として位置づけ、関係機関と連携して、生産組織の組織強化、生産技術の高度化、販路拡大支援を進め、宿儺かぼちゃの産地化を図る。

<取組>

- ・産地化計画に基づき、地域の各関係機関連携による取組を実施した。
- ・促成・抑制栽培技術を実証し、普及のため研修会を開催した。
- ・販促PRのため関東地区及び地元にて、バイヤー、観光客等を対象に試食会を開催するとともに、県外の消費者に宿讎かぼちゃが栽培されている地域を理解してもらうツアーを企画、実施した。

## ■「ふるさとのじまん農産物」づくりの推進

農業改良普及センターが、高度な専門力やコーディネート機能を発揮して、農家、市町村、農協等に対し、ふるさとの「じまん農産物」づくりに向けた意識を醸成するとともに、新品種・新技術の導入や生産から加工、流通、販売までを総合的に支援する普及活動を展開。

その結果、地域の振興品目（ふるさとのじまん農産物）や3ヶ年の振興方針等を定めた「ふるさとのじまん農産物産地化計画」に基づき、新たな品目として、「アスパラガス」、「ブルーベリー」、「春まちにんじん」などの定着化や「くり」、「円空サトイモ」などの栽培面積が拡大されるなど「じまん農産物」による産地強化を図ることができた。

## ■農業者による地域資源の掘り起こしを支援

中山間地域の埋もれた資源、新しい品目を掘り起こし、新たな産地づくり、ブランドづくりを進めるため、県内の3つの協議会の取組に対し支援を行った。

### ①濃山県にんにく振興協議会(山県市)

にんにく農家の掘り起こし、にんにくの試験栽培を開始するとともに、食品加工業者と連携し、にんにく加工品の開発に向けた研究調査、試作品の開発を実施。

大手コンビニエンスストアと連携し「元気玉バーガー」等を商品化。



### ②伊吹百草ブランド化推進協議会(揖斐川町)

よもぎの栽培農家の掘り起こし、加工に適したよもぎ栽培に関する研究調査、食品加工業者と連携したよもぎの加工品試作開発を実施。

### ③郡上地域ブランド開発推進協議会(郡上市)

加工向けイチゴ、にんじんの栽培研究の他、食品加工業者と連携してイチゴ、にんじんを使った加工品の試作開発を実施。



## ■県産農産物等のPR、販路拡大

### ○地産地消フェアの開催、イメージアップ活動の推進など

- ・県産農産物とその加工品を一堂に集めてPRする岐阜県農業フェスティバルを県庁周辺で開催。(10/24~25)



- ・県産農産物と県内の朝市・直売所を中京圏でPRするため「飛騨美濃ふれっしゅ直行便」を名古屋市で開催。(金山総合駅イベント広場3回)
- ・県産農産物等のイメージアップを図るためTV番組等や県外でのイベントを通じてPRを実施。「プチ・クッキング」(ぎふチャン、中部電力提供)、「うまいの極み」(CBCテレビ、アサヒビール提供)、「月一金ラヂオ2時6時」(岐阜放送ラジオ、キリンビール提供)、「匠な一品」(テレビ愛知)
- ・「岐阜の宝ものフェア」開催：富山市(10/30~31)、農林水産祭「実りのフェスティバル」開催：東京都(11/6~7)
- ・農産物直売所の販売促進を図るため、研修会等を開催。

### ○大消費地を対象としたイメージアップの推進

#### ○農業者等による大消費地での販売促進活動への支援を実施

- ・農業団体の行う首都圏、関西圏、中京圏での新規販路開拓に向けた県産農産物等PRや商談会などの開催を支援。【H21実績：首都圏・関西圏・中京圏等の流通・飲食業界関係者、消費者を対象に11回実施】
- ・農業団体の行う関西圏、中京圏、北陸圏の量販店での取扱数量拡大に向けた、県産農産物フェア開催等を支援。【H21実績：関西圏17店舗、中京圏66店舗】
- ・農業者等が行う地域の特色ある農産物等のPR、販路拡大に向けた取り組みを支援。【H21支援対象品目：飛騨高冷地野菜、飛騨美濃伝統野菜、春まちにんじん、ひるがの高原大根、佐見大豆】
- ・大都市圏の商談会等に出展し、農業者等によるPRを支援。【H21実績：'09食博覧会・大阪(9団体が出展)、アグリフードEXP02009(3団体が出展)、アグリフードEXP02010大阪への出展(4団体が出展)】



○首都圏における県産農産物の販路拡大・PRを実施。

- ・食に関するインターネットサイトに加盟する首都圏の飲食店において、県産農産物を使った料理メニューを開発するとともに消費者へ提供するキャンペーンを実施、同インターネットサイトにおいて県産農産物のPRを実施【H21実績：首都圏の飲食店10店舗】

#### ■飛騨・美濃伝統野菜の認証、PR

新たな地域ブランド農産物づくりをめざし、認証した「飛騨・美濃伝統野菜」27品目について、PRパンフレットの作成・配布、イベント等での紹介などによりPRを行った。

#### ■農林漁業者等への専門家チーム派遣

中山間地域等で農産加工や都市農山村交流などに取り組む農林漁業者等の組織に対し、生産から販売、経営に至る専門家のチームを派遣し、多角的かつ総合的な支援を実施。

○支援内容

経営、商品開発・企画、販路開拓、マネージメント、生産・製造技術の専門家を派遣し、現地指導・助言等を実施。

○派遣先

- ・七宗町山七味グループ（七宗町）・・・経営マネージメント
- ・苗木クリーン農産物生産加工有限責任事業組合（中津川市）・・・ブルーベリー加工品開発
- ・恵那の味・つたえ隊（恵那市）・・・加工品開発（地域食材・洋菓子）
- ・尾崎レディース（下呂市）・・・組織マネージメント
- ・久野川管理組合（下呂市）・・・施設マネージメント、経営マネージメント
- ・有限責任事業組合さんまぜ工房（下呂市）・・・商品開発・デザイン



恵那の味つたえ隊

## ■ 県産農産物を活用した新たな料理・菓子の開発と商品化

県産農産物を使った新たな料理及び菓子のレシピコンクール（飛騨・美濃じまん料理・菓子コンテスト）を実施し、県産農産物の活用について普及啓発するとともに、商品化に向けて県内の外食及び食品製造事業者等にレシピを提供した。

- ・ 応募数：105作品（料理部門：40作品、菓子部門65作品）
- ・ 優秀作品のレシピ提供先：県内の食品関連事業者、ホテル・旅館、県と包括協定を締結しているコンビニ等

## ■ ぎふ清流国体・ぎふ清流大会時に全国の選手らをもてなす料理のコンテストを開催

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会開催に向け、開催気運の高揚及び県産食材の地産地消の推進を図るとともに、2012年に開催されるぎふ清流国体・ぎふ清流大会に全国から訪れる選手・監督等の大会参加者を「食」の面からも温かくおもてなしするため、岐阜県の食材を用いたアイデア料理や自慢の家庭料理を募集し、「おもてなし料理コンテスト」を開催。

優秀作品については、民泊家庭や旅館、ホテル等の宿泊施設で提供される献立の手引となる「標準献立レシピ集」（仮称）に掲載するなど広く周知する。

平成22年1月23日（土）、岐阜女子大学において、第2次審査会（試食審査）を開催し、応募作品489点の中から以下の通り最優秀賞（全部門で1点）、優秀賞（各部門で1点）を決定。



最優秀賞(おかずの部)  
「古地鶏の味噌焼き」



優秀賞(ごはんの部)  
「よーい丼！！」



優秀賞(おかずの部)  
「奥美濃古地鶏のミルフィーユ」



優秀賞(おやつ・デザート部)  
「秋の味覚！恵那栗山」

### ■ぎふの味・伝承名人認定事業による県産品のPR

県内の調理技術に優れた調理師を対象に岐阜県産の「こだわり食材」を使用した料理コンクールを開催し、優秀な成績を収めた2名を「ぎふの味・伝承名人」に認定した。コンクールの食材に県産品を指定することにより素材のPRを行った。

○平成21年度ぎふの味・伝承名人認定コンクールの開催

開催日：平成21年8月20日

場 所：城南高等学校

課 題：主材料は、岐阜県産のトマト、ほうれん草、大根、茄子のうち必ず2品以上使用すること。副材料として肉類を使用する場合は、県内産のものを使用すること。



### ■「ぎふ清流国体」に向けた地域ブランドの研究開発の推進

平成24年に開催される「ぎふ清流国体・清流大会」に向け、県内産業の活性化を図るため、新たな地域ブランド品の開発と実用化を目指す。

平成21年度には、「国体に向けた新たな産品開発研究シンポジウム」を開催して、国体に関係する企業、農業者、市町村等を対象に成果を紹介した。

	目 標	平成21年度の取組
国体に彩りを添える「花き新品種」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新品種登録(平成23年度までに)</li> <li>・切り花：3品種 岐阜県を代表するバラ、トルコギキョウ</li> <li>・鉢花：1品種 岐阜県が育成した新しい品目フランネルフラワーの新品種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○フランネルフラワーの新品種「エンジェルスター」を育成(H22年1月出願公表済)</li> <li>○新品種の育成・選抜</li> <li>・トルコギキョウ「ひだの雪姫」の色違い選抜系統を評価、現地実証</li> </ul>
「夏秋イチゴ」の高品質安定生産技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高温期における栽培管理技術の確立</li> <li>・収量の向上及び安定化 現状：1.5 t/10a →目標：2.5 t/10a</li> <li>○県オリジナル品種の育成</li> <li>・民間育成の主力品種と同等の品質を有する新品種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高温期における栽培試験等を実施</li> <li>○現地検討会、試験成績検討会を通して技術・普及の支援</li> <li>○選抜した県オリジナルの1系統を試作栽培</li> </ul>
早生「甘カキ」の高品質安定生産技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「早秋」の結実・収量の安定</li> <li>・現状：150kg/10a →目標：1.5 t/10a</li> <li>○「太秋」の汚損果の発生抑制(収量比)</li> <li>・現状：30～50%以上 →目標：30%以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生理落果発生対策(早秋)</li> <li>・適正な樹勢管理と人工授粉による整理落果の軽減</li> <li>○雄花着花・汚損果発生対策(太秋)</li> <li>・袋かけ栽培による汚損果の軽減</li> </ul>
大粒「クリ」の新品種(ぼろたん)を使った加工技術及び病害虫果発生抑制技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい加工品及び加工技術の開発</li> <li>・和菓子・洋菓子等新しい加工品の開発</li> <li>・一般家庭向け調理方法の検討(レシピの紹介、味覚を活かす加工法の検討)</li> <li>○病害虫果の発生抑制(全収量比)</li> <li>・現状：30% →目標：10%以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○菓子業者と連携した加工品の開発</li> <li>・クリの形状及び素材の味を活かした創作菓子を試作</li> <li>○ぼろたん用の傷入れハサミの開発</li> <li>○生産規模の拡大 1000株(250a分)</li> </ul>
県産豚肉の高品質化技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○霜降り豚肉の開発</li> <li>・牛肉の「サシ」のような付加価値化</li> <li>○ドリップロス低減技術の開発</li> <li>・店頭販売時のドリップロス低減 目標：現状の50%削減</li> <li>・開発飼料による飼養管理技術の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○霜降り豚肉を生産できる種豚群として「ポーノブラウン」の開発</li> <li>・「ポーノブラウン」の精液を用いた試験生産を実施</li> <li>○ドリップロス低減飼料の開発</li> <li>・開発飼料によるドリップロス低減効果を実証、飼料の配合組成を決定</li> </ul>
カジカの養殖技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○採卵安定化・量産化技術の開発</li> <li>・国体時：60,000尾の供給</li> <li>○新たな地域特産品の育成</li> <li>・温泉旅館や料理店と連携した新しい地域特産品の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特産品化を目指した新商品の開発</li> <li>・カジカ養殖研究会との連携を実施(下呂市、飛騨市の14個人・団体)</li> <li>○研究会会員向け生産用稚魚の供給</li> <li>○簡易なカジカ養殖システムの開発</li> </ul>

ぎふ清流国体 に向けた新しい陶磁器食器 の開発	○環境負荷低減エコ食器の開発 ・廃食器配合(リサイクル)率の向上 現状：20% →目標：50%以上 ・焼成温度の低下 →目標：1,150℃以下 ・温室効果ガス 従来比15%以上削減 ○軽量強化磁器食器の開発 ・磁器食器特性の向上(既存品比) 強度：既存品並、重量：20%軽量化	○廃食器粉末を高配合化したリサイクル素地特性の検討 ・リサイクル率50%の試作品を開発 ・破損率を低減、強度を1.5倍に向上 ○軽量強化磁器食器の試作品開発 ・既存品に比べ、約10%軽量化 ・既存品に比べて1.5倍強度を向上
-------------------------------	---	---

### ■ぎふの木で家づくりの推進

県産材の利用促進を図るため、住宅の構造材や内装材に一定量の県産材を使用した建築主に対し、経費の一部を助成した。(平成21年度実績：構造材補助200棟、内装材補助90棟)

### ■「ぎふ証明材」のブランド化推進

平成19年度から認証を始めた「ぎふ証明材(※)」の信頼性確保によるブランド力の強化を図るため、有識者等で構成する「ぎふ証明材性能表示体制整備検討委員会」を設置し、乾燥度合いや強さなどの品質・性能を表示する基準とそれを認証する新たな制度について検討を行った。

※ぎふ証明材：岐阜県産材であることに加えて、森林法などの法令に照らし合わせて適正に伐採されたことを証明された木材。



## 5 まちづくり支援・移住定住推進プロジェクト

### ■「まちづくり支援チーム」の派遣等による、まちづくり支援の推進

ぎふまちづくり応援プラン（平成19年3月策定）に基づき、地域主体で行われるまちづくりに対する一元的な相談窓口「まちづくり総合窓口」を設置し、実際に現地に赴き各地域の実情を伺いながらその地域に見合った支援策を住民の方々とともに考える「まちづくり支援チーム」を5地区に派遣した。そのうち、飛騨市宮川町種蔵及び下呂市馬瀬地区は、自立した活動を継続的に行うことを期待して平成22年3月に「元気なふるさと認定証」を授与し、派遣を終了した。

また、外部専門家などによる相談や調査を行う「まちづくりアドバイザー派遣」や、まちづくり支援チームの派遣地域において、まちづくり活動を行う団体を対象とした「いきいきまちづくり整備等補助金」を創設し、活動を支援した。

#### 【まちづくり支援チームの派遣】

##### ○揖斐川町谷汲門前地区（H19年6月～）

かつての、活気・にぎわいのある町を取り戻すため、門前町に相応しい街並みづくりと交流人口の増加に資する様々な取組（イベント等）を支援した。

<21年度派遣実績> 延べ20回

##### ○飛騨市宮川町種蔵地区（H19年6月～H22年3月 派遣終了）

古民家、板倉を移築改修した宿泊施設（H21年4月開設）を地域で運営し、地域の維持、活力の創出につなげていくことができるよう、宿泊施設の運営に関するアドバイスや広域的なPR等を支援した。

<21年度派遣実績> 延べ5回



<宮川町種蔵地区>

元気なふるさと認定式(H22.3.13)

○土岐市駄知地区（H20年5月～）

陶磁器産業を活用した産業観光、まちづくりを進め、交流人口の増加による地域経済の活性化、陶磁器産業のブランド力向上を図るため、駄知地域産業活性化プランの策定（H21年10月策定）及び案内看板の設置やイベント実施を支援した。

<21年度派遣実績> 延べ14回

○下呂市馬瀬地区（H20年5月～H22年3月 派遣終了）

日本一の鮎、美しい農村景観、清流馬瀬川、人気の高い温泉等豊富な地域資源を活用して、地域に経済的な活力を生み出していくため、第2次馬瀬地方自然公園づくり計画に基づくウォーキングコースの設定や誘客PRを支援した。

<21年度派遣実績> 延べ19回

○御嵩町御嶽宿地区（H20年9月～）

地域内の歴史資源である旧中山道御嶽宿、願興寺のほか、近隣のみたけの森、中山道謡坂等の資源を活用しながらのまちなみ整備（景観整備のための住民主体の活動）、拠点施設等の整備、誘客宣伝など交流人口の増加に向けた取組を支援した。

<21年度派遣実績> 延べ7回



<御嵩町御嶽宿地区>  
住民による名鉄御嵩駅の修景

#### 【まちづくりアドバイザーの派遣】

地域住民やNPO、任意団体等が、市町村と連携してまちづくりの推進に関する研修会等を行う際に、外部有識者（専門家）をまちづくりアドバイザーとして派遣し、地域が主体となった地域資源の発掘、評価、活用方策等について助言を行った。

<平成21年度派遣実績> 延べ8回

#### 【いきいきまちづくり整備等補助金の交付】

まちづくり支援チームの派遣地域において活動を進める団体などが、地域資源を活用し、自ら行った地域活性化に繋がる事業に要した経費を補助した。

<平成21年度交付実績> 14件 32,232千円

## ■移住・定住の推進

観光による来訪をきっかけとし、本県の魅力を体験することにより、都会から人を呼び寄せ、地域の振興を図ることを目的に、移住・定住推進事業を実施した。

### ○情報発信機能の強化

- ・移住・定住総合相談窓口の設置
- ・東京・大阪・名古屋でのPR  
(東京4回、大阪3回、名古屋1回)
- ・ふるさと体験モニターツアーの実施  
(H21年10月24日～25日、郡上市・高山市)

### ○岐阜県ファンクラブの設立

- ・設立日：平成21年7月15日
- ・会員数：222名(H22年3月31日現在)

### ○岐阜県移住・定住推進会議の開催

- ・日時：平成22年2月19日
- ・参加：33市町村



ふるさと回帰フェア（大阪）  
(H21. 10. 24～25)



ふるさと体験モニターツアー  
(H21. 10. 24～25)

## ■JR岐阜駅周辺地域の誘客及び消費拡大

JR 岐阜駅周辺の新しいにぎわい創出空間として、岐阜シティ・タワー43などに開設した「EKI-Site43Gifu (エキサイト43ギフ)」において、生活用品のセレクトショップや岐阜のこだわりの味の販売等の他、季節感のある多彩のイベントを実施。

また、「まちの顔」である商店街や中心市街地の活性化、地域消費の拡大、岐阜の魅力の再発見、地域内外の回遊性の向上目的として岐阜市街地回遊型イベント「あじな岐阜遊歩祭2010」を開催しました。

## ■空き店舗活用等による誘客

高山の商店街の空き店舗を活用して開設した市街地回遊拠点「ひだっちカフェ・ひだっちさるぼぼショップ・ひだっちグルメ工房・ひだっち獅子ギャラリー」を運営し、地元産

品を使った土産品や新キャラクター商品の販売、観光情報や飲食サービスの提供、IT技術を使ったまちなか回遊型イベントを実施。

また、増加する外国人観光客のまちなかへの誘客及び消費の促進を目的とする「中心市街地海外誘客受入事業」を実施し、11商店街振興組合等の外国人観光客等の受入体制の整備・充実を図る取組に対し支援しました。

#### ■ iPhone アプリケーション開発拠点の確立

近年市場拡大が進んでいる iPhone アプリケーションの開発人材の集積、交流や情報発信を行うため、ソフトピアジャパン・ドリームコア内に拠点施設「DREAMCORE COLLECTIVE」(ドリームコア・コレクティブ)を開設。アプリ開発講座「iPhone 塾」や情報交流会「モバイルカフェ」の開催など様々な事業を展開することにより、国内には例のない iPhone アプリ開発拠点としての地位を確立し、ソフトピアエリアの更なる魅力向上と賑わいの創出を図った。

<平成21年度実績>

iPhone 塾 21 講座開催、受講者延べ797名

モバイルカフェ 18回開催、参加者延べ599名

#### ■ グリーン・ツーリズムの推進 ～岐阜県のグリーン・ツーリズムを全国に発信～<再掲>

##### ■ 民間団体による農山村定住・交流人口増加につながる取組を支援

グリーン・ツーリズムなどを通じて、農村における交流人口、定住人口につながる新しいビジネスモデルの確立を支援し、雇用の拡大と農村地域の定住化を促進。

##### ○ 支援内容

農村の交流人口、定住人口の増加につながるビジネスモデルを民間団体に提案してもらい、採用された企画の実践を委託。

##### ○ 実施団体

- ・ ぎふ農業協同組合(岐阜市)・・・特産品、農産加工品の開発、農業体験の実施
- ・ NPO法人メタセコイアの森と仲間たち(郡上市)・・・農業体験、都市交流事業、農業オペレーターの育成
- ・ NPO法人山菜の里いび(揖斐川町)・・・農業体験、耕作放棄地再生
- ・ 株式会社和仁農園(高山市)・・・都市交流、小中学生対象の環境調査、耕作放棄地解消
- ・ 株式会社モールデック(各務原市)・・・ログトレーハウスによる滞在型市民農園の提供

##### ■ 農林漁業者等への専門家チーム派遣 <再掲>

## ■ 棚田の保全と魅力のPR

棚田保全に対する意識向上を図るため、棚田の魅力や保全活動の必要性を普及し、都市住民等に活動参加を促すなど棚田保全活動の推進、支援を実施。

### ○ 普及啓発活動

- ・「ぎふの棚田21選」写真コンクール
- ・「ぎふの棚田21選」PR看板設置

### ○ 棚田保全活動組織への支援

- ・坂折棚田保存会（恵那市）
- ・北山集落（八百津町）
- ・滝町棚田保存会（高山市）
- ・種蔵を守り育む会（飛騨市）



## ■ ぎふ水土里の魅力再発見

豊かな生態系や美しい景観、農村固有の伝統文化など県内の農村にある魅力を再発見し、広く県民の方々に知ってもらおうと共に、多くの方が農地や農業用水等の地域資源に触れ、県全体で元気で魅力ある農村づくりに取り組む運動を実施。

### ○ 普及啓発活動

- ・ぎふ水土里の展示会
- ・ぎふ水土里の体験スタンプラリー

### ○ 体験活動

- ・農地・水・農村環境保全向上活動
- ・ぎふ水土里の探検隊
- ・田んぼの仲間生息環境保全活動



## ■ 電線類地中化事業の推進

都市災害の防止、安全で快適な歩行空間の確保、歴史的町並の保全等都市景観の向上を図るため、引き続き道路上の電線等の地中化を推進した。

### < 無電柱化推進計画に基づく整備状況 >

- ・第1期（S61～H2）： 7.30 km
- ・第2期（H3～H6）： 7.61 km
- ・第3期（H7～H10）： 17.51 km
- ・第4期（H11～H15）： 22.18 km
- ・第5期（H16～H20）： 13.14 km
- ・第6期（H21～H25）： 現在作成中

### < H21年度県施工 >

- ・(国) 158号 高山市名田町（安川通）



- ・(主) 岐阜美山線 岐阜市山吹町
- ・(主) 岐阜関ヶ原線 岐阜市徹明通

## ■中山道統一デザイン案内標識設置の促進、PR 〈再掲〉

### ■美しいひだ・みの景観づくりの推進

地域の自然や歴史と調和した景観の保全を図るため、市町村の景観行政団体への移行、景観計画の策定を支援するとともに、屋外広告物対策の推進、景観シンポジウムの開催等を実施した。

○県内景観行政団体：14団体、景観計画：9市1村が策定(平成22年3月末現在)

○平成21年度景観シンポジウム

- ・日時：平成21年11月17日(火)
- ・場所：東美濃ふれあいセンター 歌舞伎ホール(中津川市)
- ・内容：基調講演「景観とデザイン」、パネルディスカッションテーマ：「次世代に向けての住民による新たな景観づくり」

○屋外広告物対策の推進

9月10日の「屋外広告の日」にあわせて県下全市町村において一斉に違反広告物の簡易除却及び街頭是正指導を実施。(平成21年度除却件数：880件)



景観シンポジウム パネルディスカッション

### ■重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業等への支援

国が選定した重要伝統的建造物群保存地区5地区について、当該市村の保存事業に関し指導助言を行うとともに、修理・修景などの保存修理事業に対して補助を実施した。

<重要伝統的建造物群保存地区>

- ・恵那市岩村町本通り伝統的建造物群保存地区
- ・高山市三町伝統的建造物群地区
- ・高山市下二之町大新町伝統的建造物群保存地区
- ・美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区
- ・白川村荻町伝統的建造物群保存地区

## 6 「ふるさとの誇り」づくりプロジェクト

### ■ぎふ清流国体・ぎふ清流大会県民運動（ミナモ運動）

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の開催気運を盛り上げ、全国から訪れるたくさんの人々を温かくお迎えし、思い出に残る大会とするための県民運動「ミナモ運動」を推進。

＜「ミナモ運動推進計画」3つの分野 6つの運動＞

3つの分野	6つの運動
おもてなし	①心をこめたおもてなしをしよう ②ふるさとのじまんを発信よう
スポーツ・健康	③ミナモと歌って踊ろう ④スポーツを楽しもう、健康な体をつくろう
美しい環境と清流	⑤ふるさとの清流を守ろう ⑥まちをきれいにし、花でかざろう

＜主な活動事例＞

#### ○おもてなし

- ・おもてなし料理コンテスト
- ・情報支援ボランティア等養成会議
- ・民泊業務研修会 ほか

#### ○スポーツ・健康

- ・ミナモグッズ商品化（ミナモ飴、Tシャツ、ネクタイ、キーホルダー等）
- ・両大会に向けた新たな産品開発（花き新品種、夏秋イチゴ等）
- ・幼稚園・保育所、小学校等でのミナモダンス・ミナモ体操の活用
- ・開催競技の体験教室
- ・ミナモダンス・ミナモ体操リーダー養成講習会（開催回数：6回 認定者：457人）
- ・ミナモダンス・ミナモ体操出前教室（実施回数：220回） ほか

#### ○美しい環境と清流

- ・競技会場となっている河川の清掃
- ・競技会場の花かざり
- ・競技会場の清掃活動
- ・ぎふ清流国体・ぎふ清流大会推奨花の決定 ほか

### ■清流環境教育の推進

次代を担う子どもたちがふるさとの環境について関心を持ち、理解を深め、行動につなげていけるよう、「水の探究」を重点テーマとした「こども環境博士コンクール」の開催、学校に対する森・川・海の環境学習コーディネーターの派遣、地域特性を生かした「ぎふ清流環境塾」の開催など、環境教育の充実を図った。

○こども環境博士コンクール

小学生を対象に、夏休み期間中に行う環境に関する自主研究を募集し認定するコンクールを実施した。全30作品の応募があり、11名のこどもを環境博士に認定した。

○森・川・海的环境学習コーディネーター派遣

環境学習の専門家を小中学校に派遣し、体験学習や年間指導計画についてアドバイス等を行った。派遣を希望する学校の中から3校を選定し、延べ6回派遣した。

○ぎふ清流環境塾

県内の圏域毎で、小中学校の児童生徒やその保護者等を対象とした環境塾を毎月第2土曜日の「県民環境の日」を中心に延べ36回実施した。

■一万人県民による河川調査

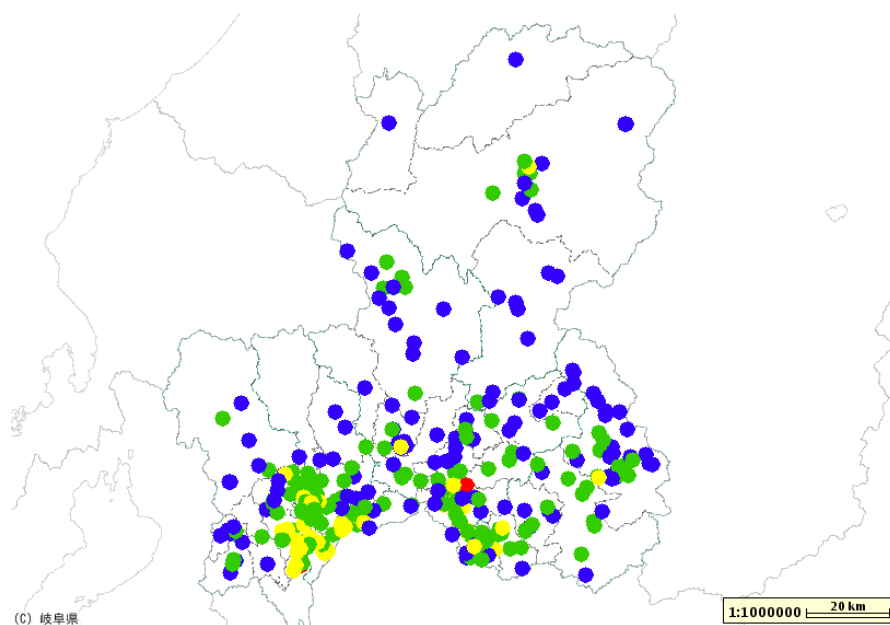
各自がもつ「感覚」を用いて身近な河川や水辺の様子について、においやゴミの量など6つの項目を調べ、それらの状態を評価し、報告していただくよう県民に広く呼び掛けました。

自分たちでできる調査方法で地域の水辺を調べ評価することで、身近な水環境を見つめ直すきっかけとなることを期待するものです。調査結果はGISマップにしてホームページに掲載しました。

平成21年度実績

団体数	のべ人数	調査河川数	地点数	のべ地点数
130	6067	176	311	362

- 大変きれい
- きれい
- 少しきたない
- 大変きたない



## ■社会教育文化施設における企画展示

ふるさとへの誇りと愛情を醸成するために、博物館、美術館において、岐阜県ゆかりのテーマによる企画展示を実施した。

### ○博物館

- ・人、和して楽しむ～岐阜の文楽～（9／15～11／15）
- ・長良川のある暮らし～遺跡は語る～（1／5～2／14）

### ○美術館

- ・岐阜・愛知・三重 三県立美術館協同企画 時代を創った日本画家たち（7／11～8／30）
- ・話題のアーティストを紹介するクロスアート2（11／10～1／24）

### ○ミュージアムひだ

- ・「富山・岐阜」交流の日記念事業 飛騨の椅子展（9／2～6）

## ■県立文化施設の無料開放

「岐阜～ふるさとを学ぶ日（11月3日文化の日）」に、県立文化施設を無料開放するとともに教育普及活動を展開することで「ふるさと岐阜」への誇りと愛着を育んだ。

- ・博物館、美術館、現代陶芸美術館、高山陣屋、ミュージアムひだ

## ■岐阜県文芸祭における「飛騨美濃じまん部門」の実施

岐阜県文芸祭に「飛騨美濃じまん部門」を設置し、ふるさと岐阜県の風景、生活、民族、伝承、歴史上の人物など、岐阜県の自慢話や岐阜県の魅力を伝える作品を募集し、顕彰を行った。

- ・応募総数161点（飛騨美濃じまん賞10点 奨励賞8点 佳作5点）

## ■美しいひだ・みの景観づくりの推進 <再掲>

## ■重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業等への支援<再掲>

## ■「ひだ・みの創作オペラ」への補助

飛騨・美濃の特性を生かした誇りの持てるふるさと作りを推進するため、県内各地に伝わる自然や歴史・昔話を題材に、地元の出演者、スタッフ、ボランティア等が一体となり創作する県民参加型のオペラを開催した。

- ・日時：平成22年3月13日（土）、14日（日）
- ・場所：各務原市 村国座
- ・内容：埋もれ水の詩（うた）

## <参考資料>

### ・ 平成21年度の飛騨・美濃じまん運動の推進に向けた検討状況

#### ■ 飛騨・美濃の観光を考える委員会

会長：須田寛 東海旅客鉄道(株)相談役

委員：交通、マスコミ、観光業界、市町村等で構成

第1回 日時 平成21年12月21日

議題 ①平成22年度「飛騨・美濃じまん運動」の展開について  
同委員会の検討結果を、平成22年度の「飛騨・美濃じまん運動」の展開や予算策定に反映させることにより、より実効性のあるものとする事ができた。

#### ■ 飛騨・美濃じまん地域会議

##### 【岐阜圏域】

(観光振興部会)

第1回 日時 平成21年4月23日(木)

議題 ①岐阜圏域の観光の現状と課題の把握について  
②誘客につながる圏域の観光のあり方について

第2回 日時 平成21年7月14日(火)

議題 ①岐阜圏域の観光資源を活用した誘客について  
②岐阜圏域じまん巡りにについて

第3回 日時 平成21年12月17日(木)

議題 ①岐阜圏域のモデルコースの提案とガイドブックの作成について  
②「飛騨・美濃じまん岐阜地域会議」の構成員について

##### 【西濃圏域】

(じまんの原石関係者連携会議)

第1回 日時 平成21年6月22日(月)

議題 ①平成21年度「飛騨・美濃じまん運動」について  
②「じまんの原石」関係者の今年度の主な取組について  
③西濃圏域「じまんの原石」育成事業(案)について  
④ITを活用した情報発信(ブログ、動画、HP)について  
⑤西美濃(旧西濃1市5郡)の観光戦略について

第1回 日時 平成22年3月12日(金)



- 議題 ①西濃圏域「じまんの原石」等の育成支援について  
②「飛騨・美濃じまん運動」第2ステージの展開について

**【中濃圏域】**

第1回 日時 平成21年7月17日（金）

- 議題 ①岐阜の宝もの認定プロジェクトの今後の流れについて

**【東濃圏域】**

第1回 日時 平成22年3月24日（金）

- 議題 ①平成22年度「飛騨・美濃じまん運動」の展開について  
②東濃圏域における観光振興について  
③平成21年度観光レクリエーション動態調査について

## ・ みんなでつくろう観光王国飛騨・美濃条例

平成19年7月9日公布  
岐阜県条例第39号

### みんなで作ろう観光王国飛騨・美濃条例

私たちは、古くから「飛騨の国、美濃の国」と呼ばれてきたこの岐阜県を愛してやみません。

この地は、春には桜色に包まれ、夏には深い緑におおわれ、秋には森は赤や黄色に染まり、平野は黄金色に輝き、冬には白く雪化粧をするなど、自然の生みだす五色の彩りに恵まれています。

この地には、日本人の心のふるさとの原風景がいたるところにあります。

この地は、日本の東西交流の中心地として、重要な歴史の舞台になってきました。地の利をいかした独自の文化が育まれ、商いも活発に行われてきました。

そして、太平洋側と日本海側を南北に結ぶ交通網が充実する今日、飛騨・美濃は、日本の東西南北の交流の中心として、明日の舞台になろうとしています。

おりしも、団塊の世代の人々の恋しや自らの再発見を求めたふるさと回帰が進んでいます。

さあ、飛騨・美濃にとって大交流時代の幕開けです。

日本のふるさとの良さをすべて持った飛騨・美濃が、県内外の人たちに恋しを与え、心にゆとりを与えるところとして輝くときです。

観光は、単に観光産業だけではなく、製造業、農林水産業など、幅広く地域経済へ効果をもたらす、すそ野の広いものであり、みんなで大切に育てるべきものです。こうした観光による交流を広げる取組は、明日のふるさとづくりにつながります。

飛騨・美濃には、森林、河川、温泉などの素晴らしい自然、歴史、文化、産業など、日本の貴重な財産として、世界に誇れるものが満ちあふれています。

私たちは、自信を持って、各地から多くの人たちにこの地へ観光に訪れていただくため、総力をあげて、飛騨・美濃のじまんを知ってもらい、見つけだし、創りだす飛騨・美濃じまん運動を進めます。そして、飛騨・美濃を、誇りの持てるふるさとへと発展させていくため、観光王国飛騨・美濃を私たちみんなで作ります。

(めざすもの)

第一条 私たちは、飛騨・美濃のじまんを知ってもらい、見つけだし、創りだす飛騨・美濃じまん運動（以下「じまん運動」といいます。）に取り組むことで、観光産業を基幹産業として発展させ、もって飛騨・美濃の特性をいかした誇りの持てるふるさとをつくります。

(合い言葉)

第二条 私たちは、「知ってもらおう、見つけだそう、創りだそう ふるさとのじまん」を合い言葉に、じまん運動にみんなで行います。

(じまん運動を進めるしくみ)

- 第四条 県は、じまん運動の方向性などを検討するしくみとして飛騨・美濃の観光を考える委員会（以下「委員会」といいます。）をつくります。
- 2 県は、飛騨・美濃全体にかかわるじまん運動を進めるしくみとして飛騨・美濃じまん県民会議（以下「県民会議」といいます。）をつくります。
- 3 県は、市町村などと協力して、それぞれの地域で、じまん運動を進めるしくみとして飛騨・美濃じまん地域会議（以下「地域会議」といいます。）をつくります。
- 4 県民会議と地域会議は、一体となってじまん運動を進めます。

(知ってもらおうふるさとのじまん)

- 第五条 私たちは、ふるさとのじまんで県内外の人たちに知ってもらうため、あらゆる機会を利用して積極的に情報を発信します。
- 2 私たちは、豊かな風土に育まれた農林水産物、匠の技により作りだされた地場産品などを積極的に活用するとともに販売します。

(見つけだそうふるさとのじまん)

- 第六条 私たちは、ふるさとの隠れたじまんを見つけたすため、ふるさどについて学びます。
- 2 私たちは、次の時代を担う子どもたちがふるさどに誇りを持つことができるよう、学校、地域、家庭などさまざまなところでふるさと教育を進めます。

(創りだそうふるさとのじまん)

- 第七条 私たちは、ふるさとのじまんで素敵なものに育てるとともに、新しいふるさとのじまんで創りだします。
- 2 私たちは、地場産業や地域産業が活発になるよう、ふるさとの特性をいかしたブランド力のある商品の開発に取り組みます。

(おもてなしの心)

- 第八条 私たちは、「いい旅 ふた旅 ぎふの旅」をキャッチフレーズに、飛騨・美濃に一人でも多くのお客様に何度でもお越しいただき、楽しんでいただくため、一人一人がおもてなしの心でお客様をお迎えます。

(美しい自然を守る観光)

- 第九条 私たちは、豊かで美しい自然を守るとともに、自然を観察したり体験しながらそのしくみを学び、大切に自然観光を積極的に進めます。

(ふるさとの文化にふれる観光)

- 第十条 私たちは、古いまちなみや素晴らしいふるさとの文化などを大切に、後世に伝えるとともに、お客様にこの文化にふれていただける観光を積極的に進めます。

(お客様にやさしいまちづくり)

第十四条 県は、市町村などと協力して、バリアフリーのやさしいまちづくりを進めるなど、年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、お客様に楽しくすごしていただけるよう心がけます。

2 私たちは、観光施設のトイレをきれいにするなど、お客様に気持ちよく観光をしていただけるよう心がけます。

(飛騨・美濃じまんの日)

第十五条 県は、8月21日を飛騨・美濃じまんの日とします。

(飛騨・美濃じまん運動実施計画)

第十六条 県は、じまん運動を計画的に進めるため、飛騨・美濃じまん運動実施計画を定めます。

2 県は、飛騨・美濃じまん運動実施計画を定めるときや変更するとき、委員会と県民会議の意見をききます。

(飛騨・美濃じまん白書)

第十七条 県は、毎年度、じまん運動の成果を白書としてまとめ、評価や検証をし、次の運動につなげていきます。

(その他)

第十八条 この条例に定めることのほか、必要なことについては、知事が定めます。

#### 附 則

1 この条例は、平成十九年十月一日から施行します。

2 岐阜県観光審議会設置条例(昭和四十二年岐阜県条例第三十八号)は、廃止します。

## 平成22年度版 飛騨・美濃じまん白書

～平成21年度 飛騨・美濃じまん運動の進捗について～

岐阜県 観光交流推進局

平成23年3月